

令和6年度助産師職能委員交流会は『『岩手県版 院内助産開設推進ガイドブック(仮称)』をともに作ろう』をテーマに、2024年8月31日(土)に開催しました。はじめに、日本で院内助産に期待が寄せられている現状と交流会の目的を説明しました。また、岩手県職能委員会のメンバーが所属先で経験をしている立ち会い出産再開に向けての基準作りのプロセス、多くの科で成り立つ混合病棟化の傍らで分娩介助をしている現状等を紹介し、助産師の専門性を安全に発揮するために「ガイドブックを作成する必要性」を参加者と共有しました。

グループワークは、次の3点を話し合いました。また、考えたことをスマートフォンで入力し、その内容がリアルタイムで共有できる「slido.com」を初めて使用しました。1つ目の「院内助産を進める上でのネックは？」では、「混合病棟で妊婦・産婦に手厚く関われない」「助産実践に自信がない」「管理者に理解してもらいたい」などの意見が出ました。2つ目の「ネックを解消するためにガイドブックにあると良い内容は？」では、「県内の共通する基準」「緊急時の対応」「他科との調整例」「好事例紹介」などでした。3つ目の『『こうなりたい』を語ろう—そのためにできること—』では、「産婦さんにいっぱい関わりたい」「研修を受けて自己研鑽をする」「先輩から後輩への技の伝達」「ともに頑張る職場づくり」などが出ました。参加者みなさんの声が最も大きくなり、生き生きとした表情でディスカッションを行った時間でもありました。

今回の交流会で分かったことは、助産師一人ひとりが妊婦さん・産婦さん・褥婦さん、赤ちゃん、その家族のために助産師の専門性を発揮し、関わりたいという思いを持っていることでした。参加者のみなさんとのディスカッションを経て、「同じようなジレンマを抱えている方のお話を聞くことができ、有意義だった」「助産師同士の交流は楽しい」と、助産師としてのモチベーションを高める機会となっていました。また、「いろいろな現状をもっと共有した方がいい」「院内助産を経験した方の話を聞くことができた」「支部の委員と協力することで、よりたくさん意見を得て使いやすいガイドブックに近づけることができると感じた」「岩手県で働いている皆さんと同じ方向に向かっていける感じがよい」と、岩手県の助産師が一丸となりガイドブック作成に取り組む意義を見出した時間となりました。

(助産師職能委員 金谷享子)

